

環境への取り組み

地球環境保全への取り組みは富士通グループにおける経営の最重要事項の1つです。気候変動は社会の持続可能性に影響を及ぼす地球規模の課題であり、水問題や資源循環の課題とも密接に関係します。富士通グループはバリューチェーン全体での環境負荷低減とリスク最小化を徹底するとともに、Digital Co-creationのパートナーとして、持続可能な社会の実現に貢献します。

富士通グループの環境分野への取り組みの詳細についてはこちらをご参照下さい。
<https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/>

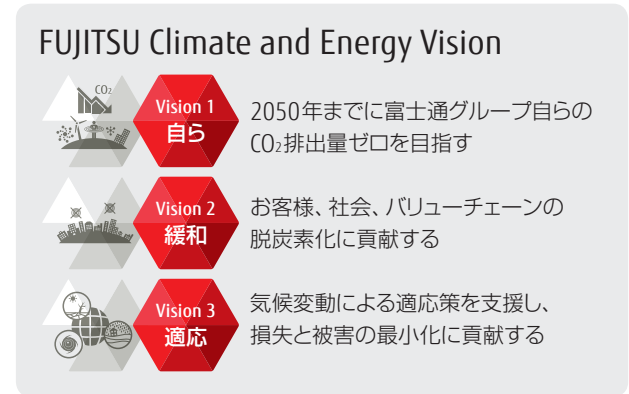
富士通グループの中長期環境ビジョン

富士通グループはグローバルに事業を展開するうえで、気候変動はリスクである一方、緩和・適応への貢献としてビジネスの機会でもあると捉えています。気候変動を環境のマテリアリティと位置付け、果たすべき役割やあるべき姿を明確にした中長期環境ビジョン「FUJITSU Climate and Energy Vision」を2017年に発表しました。

2050年に90億人を超える人々が、エネルギー・水・食糧などの制約の下、豊かに暮らす社会を実現するため、富士通グループはデジタル革新を支えるテクノロジーを活用し、自らのCO₂ゼロエミッションと、気候変動の緩和や適応にお客様・社会と共に取り組みます。

「FUJITSU Climate and Energy Vision」を実現していくうえで情報開示は不可欠と考え、当社は2019年4月にTCFD*提言への賛同を表明しました。

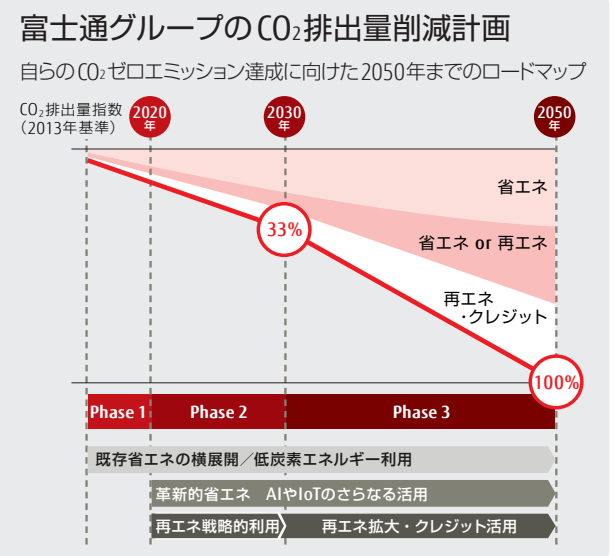
*気候関連財務情報開示タスクフォース



気候変動、環境課題に対する取り組み

自らのCO₂ゼロエミッションに向けて

富士通グループは、2050年までの期間を3つのフェーズに分けて、CO₂ゼロエミッションに向けて段階的に取り組みます。



温室効果ガス排出量削減の実績

富士通グループが設定した事業所およびバリューチェーンから排出される温室効果ガスの削減目標は科学的根拠のある水準として「Science Based Targets イニシアチブ (SBTi)」に認定されています。実績は以下のとおりです。

脱炭素化に向けた取り組み	目標*1	2019年3月期実績
自らの温室効果ガス排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> 2030年までに33%削減 2050年までに80%削減*2 	28%削減
バリューチェーンの温室効果ガス排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> 2030年までに30%削減 *対象: 購入した製品・サービス、および販売した製品の使用に伴う排出量 	33%削減

*1 2013年比

*2 カーボンクレジット分を差し引いた目標値

Green500で世界1位を獲得

当社と理化学研究所が共同で開発を進めているスーパーコンピュータ「富岳(ふがく)」のプロトタイプが、2019年11月、スーパーコンピュータの消費電力性能を示すランキングであるGreen500において世界1位を獲得しました。

「富岳」はSociety5.0を支える重要な研究基盤として、創業や防災、産業競争力の強化などを実現するシミュレーションに加え、新しい利用分野であるAIやビッグデータの基盤としての利活用が期待されています。

詳細はこちらをご覧ください。
<https://pr.fujitsu.com/jp/news/2019/11/18-1.html>

当社グループは今後も、高い省エネ性能を有し、高度な気象予測や防災に貢献するコンピューティング技術の開発やサービスの提供を通じ、気候変動の緩和・適応に貢献していきます。

再エネ利用・普及拡大に向けて

富士通グループは、再生可能エネルギー(再エネ)の普及・拡大を目指す国際イニシアチブ「RE100」に、日本初のゴールドメンバーとして、2018年に加盟しました。

2019年3月期の再エネ由来電力: 国内外の拠点で消費する電力を2050年までに100%再エネ由来とすることを目指し、海外のデータセンターをはじめ、各地域に応じた最適な手段を検討し、再エネ由来の電力調達を拡大していきます。(2019年3月期実績: 4.0%)

さらに、当社グループは、社会全体の再エネ普及への貢献に向けて、エネルギーマネジメントや貯蔵などの研究開発、技術実証に取り組んでいます。2019年にはブロックチェーン技術を応用し、工場や店舗などの電力需要家間で不足・余剰電力の取引を実現するシステムを開発しました。電力供給の安定と再エネ導入拡大への貢献を目指し、本技術の実用化を進めています。



第9期環境行動計画(2020年3月期~2021年3月期)

富士通グループは、環境課題対応の実行計画として環境行動計画を策定しており、2020年3月期より、第9期環境

行動計画に基づく活動を開始しました。第9期環境行動計画では、中長期環境ビジョンの実現に向け、事業所のGHG排出量削減やエネルギー効率の高い製品の開発を推進していきます。また、サプライチェーンにおける水リスクに着目した水資源の保全やプラスチック問題への対応などの取り組みも強化していきます。

プラスチック廃棄物問題への対応

富士通グループは、以前から事業活動に関わるプラスチックの使用・廃棄物の削減に取り組んできましたが、その取り組みに加え、深刻化するプラスチック廃棄物の問題への対応を強化しています。社会に向けてプラスチック問題への取り組みの重要性を発信するとともに、グローバルを含めた富士通グループ社員1人ひとりの問題意識を高め、プラスチック廃棄物の削減につなげていくため、社員の意識啓発に向けた取り組みを推進しています。

意識啓発に資する活動

海洋プラスチック問題への対応の重要性を解説する動画を多言語で制作し公開しました。自治体などによる市民の啓発活動や企業の教育などでもご利用いただいています。

社内では、グローバルに社員が参加する対馬エコツアーを行い、長崎県対馬市での海岸清掃を通じて現場の課題を学ぶとともに、現地のNGOの方々や解決に向けたアイデアソンを開催しました。社会課題解決の実践として、社員の啓発に取り組まれました。



また、事務所内におけるマイバッグキャンペーンを実施するなどオフィスにおける使い捨てプラスチック削減を推進しました。

環境に関わる受賞と外部評価(2019年3月期の主な受賞・結果)

富士通グループの環境戦略や取り組み、ビジネスを通じた気候変動問題への対応や自然保全への貢献は、外部機関により高く評価されています。

- 「FUJITSU Server PRIMERGY 液浸冷却システム」で平成30年度 地球温暖化防止活動 環境大臣表彰(技術開発・製品化部門)、同年度 省エネ大賞 資源エネルギー庁 長官賞(製品・ビジネスモデル部門 節電分野)を受賞
- 「音声情報を活用した生物の生息調査システムの開発」で2018年日経地球環境技術賞(第28回) 優秀賞を受賞
- 2018年のCDP「気候変動」の調査で2年連続して最高評価であるAリスト企業に選定

